

令和4年度 避難訓練

校舎1階から火災が発生したという想定で、避難訓練を実施しました。生徒や職員は、避難指示に従ってマスクの上からタオル・ハンカチを口元に当て、私語をせずに速やかにグラウンドに避難しました。



避難指示が出てからグラウンドへ避難を完了するまでの時間は**1分15秒**でした。

避難完了後、勝山宏子校長から、下記の講評がありました。

- ◆ 実際の火災や地震では精神的にパニックなるが、平時に災害時のシミュレーションをしておくことが大事。一酸化炭素中毒、やけど、煙から身を守る行動を心掛けること。
- ◆ 災害時には高校生が頼り。江風健児として避難所でボランティア活動に積極的に協力してほしい。



次に、消火訓練として、消防署の方の指導のもとで生徒代表3名が消火器の操作を行いました。



消防署の方より

消火器の使い方・消火活動について

- ◆ 校舎には20mごとに消火器が設置されている。「3本の矢」の例えのとおり、消火器1本では消せない火でも、3本の消火器があれば消せる場合がある。背丈くらいの高さの火なら何とかなる。火災を発見したら、協力してくれる人を多く集めて消火活動にあたってほしい。
- ◆ 「消火器があれば無敵」というわけではない。消火器を使うときは、自分が避難するため逃げ道を確保し、自分の命を守ることを優先すること。無理だと思ったら逃げる。
- ◆ 実際の火災現場ではパニックになり、消火器の使用手順が分からなくなってしまうことがある。普段から消火器の使用法や位置を確認しておくことが大事。



全体講評

- ◆ 各階に隊員を配置し、避難の仕方を見ていた。私語をせず、マスクの上からハンカチを当てて、慌てずに避難していた。素晴らしい避難だった。
- ◆ 一生で火災にあうことは一度あるかないかだと思う。災害による火災だけでなく、放火もありうる。完全に防ぐことは難しいが、燃えやすいものを外に置かない、見回りをするなど、日頃の備えが大切。
- ◆ 初期消火によって建物の全焼を防ぎ、小火ですむことがある。訓練を通して消火器や屋内消火栓の位置、使用方法を確認し、いざというときは先生に頼らず自分たちで消火活動ができるようになってほしい。

